

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな

四街道市消防団

災害から命を守る地域の力

大切な命を守るために、災害に備える取り組みを取材しました。地域住民で構成される消防団と、自主防災組織の活動を紹介します。地域で災害に備えるための相談先も掲載しています。ぜひご利用ください。

四街道市
みんな
地域づくり

ピックアップ①

地域食堂・子ども食堂交流会
主催：みんなで地域づくりセンター



12月7日に地域食堂・子ども食堂交流会を開催し、食堂を始めたい方、既に運営している方や関係機関など、当初の予定を上回る23名が参加しました。

まずは活動事例紹介として、旭ヶ丘にある「みらい食堂」を運営する長谷川晃一さんの話を聞いた後、参加者同士で資金調達や運営についての意見が交わされました。

この日、四街道市内にある地域食堂・子ども食堂7団体が参加しました。「必

要な時に心のこもった食事が取れること」この取り組みが地域づくりにもたらす効果は計り知れません。遊び疲れた子どもたち、小さなお子さんのいる親子連れ、散歩ついでに立ち寄り高齢者など、どんな人でも気軽に利用できる食堂のあり方について語られた交流会でした。

調理や配膳のボランティア、野菜・米の寄付など、食堂への関わり方はさまざま。関心のある方は、みんなで地域づくりセンターへお問い合わせください。

ピックアップ②

コラボ四街道 一思いをカタチに
誰でも社会の中で生き生きと
ひみつのおしゃれ工房



代表の佐々木和枝さんは「大好きな縫製を極めて人の役に立つ何かをしたい」という思いから2018年に「ひみつのおしゃれ工房」を設立しました。工房では、子育てや介護、障がいなどさまざまな理由により外で働くことが難しい方々に内職の仕事ををお願いしています。そして、一人でも多くの人が社会とのつながり、やりがいや誇りをもって生き生きとした生活を送るための仕組みづくりをしています。

しかし、既製の縫製作業は専門技術が必要になるため、内職としての実施には多くの困難がありました。そこで、古着リメイクのアイデアが生まれ、これにより今ある製品を大切にしながら、スタッフ各自の状況に合わせて作業を進めることが可能になりました。

2021年と2022年には「コラボ四街

道」に「リメイクファブリックスタートアップ事業」として申請し、補助金を活用して以下の取り組みを実施しました。

- ・貸出用のプロ仕様の道具を整備
- ・リメイク用古着の収納ケースを設置
- ・事業者向け展示会への出展
- ・ニーズを把握するためのマルシェ出展
- ・パンフレット作成やホームページリニューアル

スタッフ一人一人の状況に合わせて、製品の縫製に至るまでのステップを踏むことで、少しずつスキルアップしていきます。現在、工房オリジナル製品の販売に向けて動いていますが、新たな人材の受け入れが難しい状況です。そこで作業指導や教育ができる人材の育成や、集まって作業できる場所の確保など、試行錯誤を繰り返しながら活動を進めています。



ひみつのおしゃれ工房HP
<https://osharekoubou.com/>



「みんな」29号
佐々木和枝さんの活動に対する思いは「みんな」29号にも掲載しています。ぜひご覧ください。



みんなで地域づくり事業提案制度
(コラボ四街道)



縫製作業の様子



内職さんの活躍が多くの笑顔を生み出します

みんな38号

表紙の写真：
消防副団長・山崎英企さん、子どもたちの笑顔を見守る優しいまなざし

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政推進課分室）

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

開館日時：火一金および第1・3土 9:00-17:00

(休館は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始)

電話：043 (304) 7065 メール：info@minnade.org

発行日：令和6年3月1日 発行部数：5,000部

ホームページ



Facebook



自主防災組織を動かそう！

地域×若い力で
災害に備えたまちづくり
～さちが丘1丁目の取り組み～



地域のつながりを深める「こども110番の家」スタンブラリー

できる時にできる人が
協力し合う

2021年、四街道高校を市指定の避難所とする7地区の自治会（管理委員会を含む）で、「四街道高校避難所運営委員会」が立ち上がりました。しかし、避難所の環境や収容人数などの課題に直面し、自主防災の重要性に気づいたことから、さちが丘1丁目自治会では自主防災組織の中に「防災支援の会」を昨年立ち上げました。「年間計画を立て、楽しく！をモットーに活動しています」と会のメンバーで防災士でもある三浦誠さんと永吉洋子さん。若い人を呼び込み、できる時にできる人が核となり継続的に運営する組織を目指しています。

これまで、家具の固定方法や、消防団の消火訓練、キッズ防災、日本ペット飼育協会によるペット防災講座などを行いました。また、子ども会とのハロウィンイベントでは、仮装した子どもたちが、地域内の「こども110番の家」を巡るスタンブラリーをしたり、耐熱ポリ袋を使用

自治会やマンションで取り組んでみよう！
と思ったら「相談先一覧」

四街道市危機管理室

防災訓練、自主防災組織、避難所運営委員会
立ち上げなどに関する相談 ☎ 043-421-6102

四街道市消防本部総務課

消防団員に関すること ☎ 043-422-2475

四街道市防災士連絡会

避難所運営委員会や自主防災組織を
活性化させるためのアドバイス
yotsukaido.bousai@gmail.com

日本ペット飼育協会

飼い主を対象にした防災意識やマナー向上の
ための講習会 ☎ 043-432-3538

※みんなで地域づくりセンターでは、災害時に
市民や団体、企業などが連携できるように
災害支援ネットワークの活動を進めています。

子ども会は昨年5月に新たなメンバーで再開したばかり。会長のジェローほずみさんは、保護者が参加しやすく楽しい会を目指しており、第1回目には23家族41名が参加しました。若い世代が地域とのつながりを深める中で、ほかの住民と協力しながら、災害時に互いにサポートできるように班会議を行っています。また、地域で活躍できる男性の力を集結した青年部の立ち上げを目指しています。さらに、近隣地域との合同企画など、災害時にも連携できるよ



キッズ防災で行ったピザ作り
(左) ペットボトルで生地を作り
(右) 段ボールオープンで焼きました

うに地域や世代を超えた取り組みを進めています。



自分たちのまちを
守るために

地域の人でつくる消防団

新春に行う四街道市の消防出初式。決意を新たに整列する消防隊と消防団の姿があります。消防署に所属する消防隊と連携し、自分たちの地域を守るために活動する消防団は、地域住民で構成され、普段さまざまな職業に就いています。団員228名のうち7割が市外で働き、3割は自営業者、主婦、学生などです。市内には消防団本部と16の分団があり、本部所属の女性団員が主体となって管理する詰所もあります。また千葉県消防操法大会では、第2分団が2年連続で上位入賞を果たしています。平時には、訓練のほか、毎月1日と15日に行う火災予防呼びかけの警戒活動、消防フェスティバルや学校などでの消防体験、自治会での防災訓練などさまざまな活動を行い、火災や災害の発生時には、消防隊と連携して活動します。

災害を想定した訓練が命を守る

消防団は、台風の接近などで風水

害が予想される際、地域密着性と即時対応力という利点を生かして危険箇所の巡回などを行います。また地震発生時には、避難支援や救助活動に迅速に取り組みます。四街道市は比較的災害の少ない地域ですが、災害はいつ起こるか分かりません。消防団長の河田政実さんは、市民に伝えたいこととして「災害はなくても関心はあつてほしい」と話します。また、副団長の濱田昌孝さんと山崎英企さんは「災害が起きたら思ってた防災訓練をしてほしい」と強調します。家具の下敷きになったり、避難所に移動する道にがれきが散乱していたりしたらどうするかなど、避難するまでの訓練も大切です。さらに、避難行動要支援者に関する情報提供が迅速な救助につながるため、自治会など地域との連携がより一層重要になってきます。

地域に必要な存在として

このように地域を支える消防団員は非常勤特別職の地方公務員として活動しています。また消防団



消防署旭分署にてホース展張訓練の様子

取材協力：四街道市消防本部総務課

本部では、団員が自分の生活や家族を大切にしながら安全に活動できるように努めています。

「訓練を通して災害対応力が身に付くとともに、崩れやすそうな壁や崖といった危険箇所が目が向くなど、まちを見る目が変わりました」と話す若い団員の山崎将平さん。能登半島地震により、災害の脅威を再び突き付けられた令和6年。「地震による火災、倒壊など二次災害が人を傷つけます。これらの対応に備えることが重要だと強く感じました」

満18歳以上の健康な方なら誰でも入団できる消防団。地域を守る消防団には多くの力が必要です。